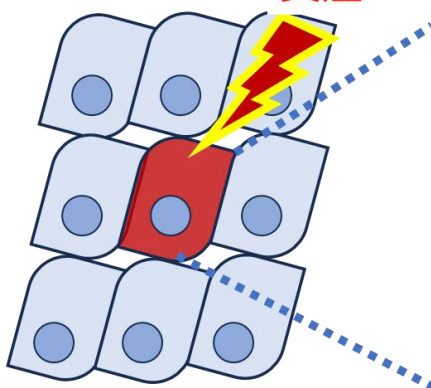
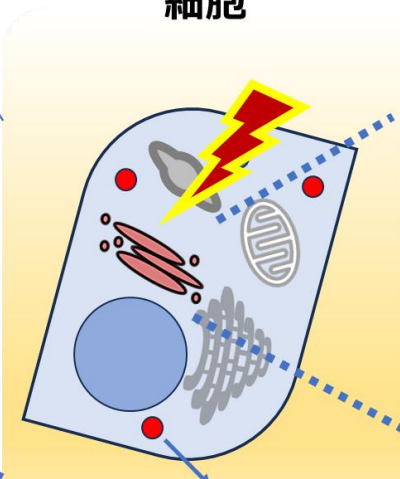


組織

炎症

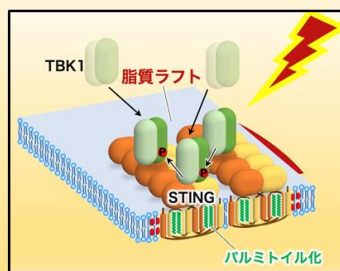


細胞

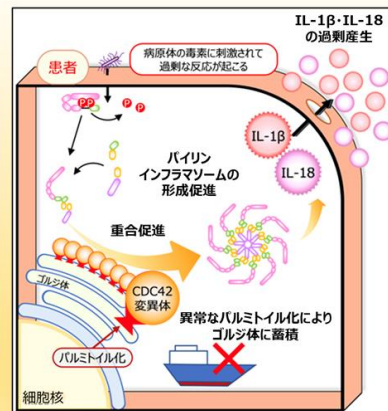


リソソームストレス応答 (PNAS 2023)

オルガネラ



(Nat Commun  
2016, 2021, 2024)



(J Exp Med 2022)

東北大学ではオープンイノベーション事業戦略機構の創設を機に、企業と大学の共創のきっかけを提供する場として、「東北大学Research Showcase」を新設し、本学の研究リソースを紹介しています。今回は、多彩な疾患の原因となる“炎症”に着目し、「分子～オルガネラ」レベルの解像度による炎症反応の解析例など、東北大学が世界をリードする代表的な研究を示しながら、それらを基盤とした創薬・企業連携の可能性を議論します。

日時

2024年 7月 31日 (水) 18:00-19:10

演題

炎症を細胞生物学から理解する ～創薬への展開～

発表者

田口友彦 東北大学大学院 生命科学研究科 細胞小器官疾患学分野 教授

野口拓也 東北大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野 准教授

笹原洋二 東北大学大学院 医学系研究科 小児病態学分野 准教授

会場

オンライン開催 (zoom webinar)

事前  
登録制

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_8ZixgiokQNOtNOQYmSBM3w](https://zoom.us/webinar/register/WN_8ZixgiokQNOtNOQYmSBM3w)

から申込をお願いいたします。

※参加費は無料です。

またはQRコードをご確認下さい▶



受付

お申込み多数の場合、アクセス数との関係でご参加いただけない場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催：東北大学オープンイノベーション事業戦略機構

<https://oi.tohoku.ac.jp/>

# 炎症を細胞生物学から理解する

～創薬への展開～

## 【紹介内容】

炎症は多彩な疾患の基盤となる生理現象であり、これまで多くの優れた研究が、炎症を制御する免疫細胞の同定・解析を通じて進められてきました。その一方で、どのように炎症の引き金が引かれるのか、その分子メカニズムについては、不明な点が意外なほど多く残されています。

東北大学では、炎症性サイトカインの産生に必要なインフラマソーム活性化、リソソームストレスおよび細胞質ゾルDNAを起点とする炎症など、細胞内で起きる様々な炎症反応に着目した最新の研究が展開されています。本ウェビナーでは、これら最新の成果を紹介し、炎症反応を制御する新しい化合物の創出などを目的とした産学連携の可能性を議論します。

## コンテンツ

18:00 はじめに：武田全弘 東北大学 OI事業戦略機構 特任教授

18:05 Topics :



田口友彦

東北大学大学院 生命科学研究科 細胞小器官疾患学分野 教授  
異常なSTINGシグナルが引き起こす自己炎症性疾患



野口拓也

東北大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野 准教授  
リソソーム向性薬剤の転移抑制剤としての可能性



笹原洋二

東北大学大学院 医学系研究科 小児病態学分野 准教授  
CDC42-C末端異常症の病態解析と今後の新規治療について

18:50 Discussion

お問い合わせ

- 東北大学オープンイノベーション事業戦略機構
- 担当： 武田、大島
- Email : [oi-event@grp.tohoku.ac.jp](mailto:oi-event@grp.tohoku.ac.jp)

主催：東北大学オープンイノベーション事業戦略機構

<https://oi.tohoku.ac.jp/>